

国立国会図書館を利用して

—所見と要望— (寄稿)

学習院大学文学部教授

児玉久雄

はじめに編集委員会より

先般毎日新聞夕刊コラムに、寿岳文章氏の当館に対する論評が二回にわたって掲載された(8月4日「なさない、国会図書館」、9月8日「再び国会図書館を憂う」)。なお前者に対する当館鈴木総務部長の投書が同紙8月15日に掲載。

この短評は、今夏トロント大学のベントリー教授が、英詩人ブレイクに関する文献調査のため来日、当館を利用したことに関連して、教授から援助を求められたブレイク研究家の寿岳氏が当館の蔵書、収集の不備等の現状を批判されたものである。

ベントリー教授の調査に際し、学習院大学児玉久雄教授は、当館にも同行、直接調査、協力にあられたが、児玉教授は、当館参考書誌部担当者の求めに応じ、今回の調査経過、ベントリー教授および自身の所見、要望などを書簡として寄せられた。

当館は、平生多数の内外研究者によって利用されているが、その調査結果や当館への要求等については、繁忙な応接のままにいつも十分に把握しているとはいえず、そのことは利用者、当館双方にとって不幸なことといわねばならない。いま児玉教授の書簡に接し、われわれは改めてそうした思いを新たにするとともに、その内容からさきざまな示唆をうることができた。当館の実情や考えから直ちに応じきれぬ要望もあって残念であるが、これを機会に利用者各位との連繫をはかり、業務に活かすよう努

めていきたい。

こうした考えから、教授の御諒承を得てその書簡を発表、大方の参考に供する次第である。(標題は当編集委員会であつた)

(前略)ベントリー教授は、英詩人ブレイクに関して日本で出版された文献を調査し、ブレイク書誌(英文)に記載する目的で来日したのですが、7月5日来日、7月25日離日する間、東京滞在の13日間のうち10日間(残る3日は東大図書館での調査、日曜日は青山学院大学での講演)国会図書館に通い、仕事を進められた訳であります。教授の仕事は

- (A) ブレイク関係文献をリスト・アップすること
- (B) リスト・アップされた文献を実際に手にしてチェックすること
- (C) それを英語およびローマ字で記録すること

以上の3つに分けられると思います。

(A) ブレイク関係文献のリスト・アップについて、教授は来日前にはかなり楽観的の考えを持っていて、図書館のインデックス・カードを利用して、包括的なリストを作り得ると考えておられたようです。この点で氏の期待は裏切られ、結局は名古屋大学教授梅津済美氏(同氏は病氣療養中のため、寿岳氏を通じてベントリー氏に渡された)と私のカードを利用することになりました。これは、次の理由によります。

- 1) まだ国立国会図書館、東大図書館その

他いずれの図書館も、昭和23年以前出版の日本人の手になるブレイク研究書を完全には集めていない。

2) 雑誌記事索引がカード・システムになっていないので (cumulative になってないので) 利用に長時間を要する。

(B) リスト・アップされた文献の現物を手にすることの困難さは、'少なくなかった'と思います。ベントリー教授のリストの複写を私は受取っておりますが、240項目あるうち、未見が57あります。その内訳は、次の通りです。

| | | |
|-------|----------|-----------------------|
| 単行本 | 1947年以前 | 10 |
| | 1948—69年 | 2 |
| | 1970年 | 2 |
| 定期刊行物 | 1947年以前 | 20 (雑誌10, 新聞2, 紀要類8) |
| | 1948年以降 | 22 (雑誌10, 新聞0, 紀要類12) |
| その他 | | 1 |

これを次のように、要約できるかと思えます。

1) 国立国会図書館は、昭和23年以降のブレイク関係単行本は、まず完全にそろっていたが、それ以前のもは十分でない。東大図書館は、ブレイク関係の蔵書が、ほとんど洋書で、日本で出版されたものの蒐集は少ない。

2) 古い雑誌の蒐集は十分でないが、これは当然予想されることであろう。

3) 昭和23年以降の定期刊行物で、国会図書館に納入されていないものが、かなりあるように思われる。このことは (A) の2) の雑誌記事索引の包括性に、大きな欠陥をもたらす。

(C) リスト・アップされた出版物を、どのように英語およびローマ字で記載するかについては、教授には日本語が分からないので Y嬢を助手につけたのですが、困難は大きか

ったと思います。これは、教授が1964年に Blake Bibliography を編集した際にも起きたことがあって、相当具体的に問題の所在を予測しておられたようですが (日本語の基本構造について、相当理解しておられました) 現地に来て、認識を新たにされたことでしょう。

1) ローマ字標記に2つの方式 (ヘボン式と訓令式) があり、例えば上智大学が, Zyoti University と Jochi University とになりうること。

2) 日本人の固有名詞の読み方、特に姓の場合、清濁の読み方が一定していない。この点、国会図書館のカタログも、正確ではない。例えば梅津済美氏は「ウメツ」であるが国会図書館カタログでは「ウメズ」となっている。

3) 名の場合、和音で読むか、漢音で読むかが一定していない。例えば柳宗悦氏は「ムネヨシ」が正しいが、自分自身、外人あての手紙などで、“Soetsu” と署名しておられる。

4) 日本人で、自分の姓名を独特のスペリングでつづっている人がいる。例えば上田姓の人は Ueda としないで、Uyeda (または Weda) とすることが多い。

右の事情からしても、ローマ字標記を一方式に統一する限界の難しさが明らかだと思います。また学術論文を発表する際には、著者が自分の姓名にふりがなをローマ字をふる習慣も必要なのではないでしょうか？

5) ローマ字の分節 (分かち書) について例えば「ブレイクについて」を Blakenitsui-te とするか、Blake ni tsuite とするか Blakeni-tsu-i-te としてしまうか。原則がほしいと思われる。

5-) どこまで英訳するか、例えば上智大学経済学部は、The Faculty of Economics, Sophia University でよいか、それとも Jochi-Dai-gaku Keizaigakubu とするのか。

上記の点については、ベントリー氏のリ

トを、目下私が点検中であります。

以上の困難はありましたが、氏が国会図書館について不満を持たれた事実はないと思います。氏は特に便宜をはかって頂くということになるべく避けて、出来るだけ館の業務を乱すことなく調査をつづけるようにしておられました。氏夫妻と助手の計3人で9冊までの貸出しをお願いし、それをベントリー夫人が代表して受取っていたので、その点で規則をゆるめて頂くことになったのですが、もし本人受取りを励行していたら、あの時間であれだけの冊数の調査は出来なかったでしょう。書誌作成のための出納は、一般閲覧者の場合とやや事情がかわりますので、その点の便宜は、今後同じような仕事で来館される方のために、お考えおき頂きたいと思います。

氏は自己のペースを守って仕事をしておられたので、余り遅くまで調査をつづけることはありませんでしたが、午後5時よりの出納には感謝しておられました。

総合しますと、国会図書館に対する注文は次のようになるでしょう。

(1) 昭和23年以前の図書、定期刊行物の蒐集。(昭和23年以前の図書を国会図書館に所蔵する目的をもって、著作権と関係なしに複製しうる立法措置は出来ないでしょうか)

(2) 昭和23年以降の図書、定期刊行物で未納入のもののないようにすること。同人雑誌、PR誌などへの呼びかけを行なってほしい。

(3) 雑誌記事索引をさらに完備し、また調査を昔へとさかのぼらせること。

(4) 著者名、書名の読み方を正確にすること。

上にのべた欠陥の多くは、私たちの世代だけが負うべきものでもないければ、図書館のみが負うべきものでもないと思います。戦前には、図書館は洋書と古刊本だけ買えばよい、新刊本は本屋にまかせればよい、という気持

が学者たちにありましたし、現在でも学界の一部には残っているでしょう。または雑誌などに発表する場合、国会図書館に納入して国民の知的財産として登録されるところまで見届けるという気持が執筆者に少ないように思われます。同じ大学から、まぎらわしい題名の紀要が数種類でていることも問題の一つでしょう。

ベントリー教授は、在日中、国会図書館、東大図書館、京大図書館を利用されたほか、寿岳博士の書庫と私の書斎をみられました。寿岳博士の蔵書を利用されたかについては、よく分かりませんが、氏のリストのなかに、当然寿岳先生の書庫にはあると思われるものが「未見」となっているのです、利用されたとしても、図書館同様に使われたのではないかなと思われまます。個人の蔵書は、リスト・アップには用いるが、チェックには図書館の蔵書を使うというのが原則のように思えました。

氏は、神田の北沢書店をのぞき、驚いておられました。これだけの書店はアメリカでもなかなかないということです。これには私も同感なのですが、本屋が欧米より進んでいるのに、図書館が欧米に比して遅れているとしたならば、どういう事態が生じるのか。この悪循環をどのようにして断ち切るべきかについて、もっと具体的な御意見を各方面から提案して頂きたいように思います。

私の一般研究室使用証を、同封申しあげます。有難うございました。おそらく近日中にもう一度、調査に参らねばならぬと思いますので、その節はよろしくお願いいたします。ベントリー氏の調査で、国会図書館にないもの、もう一度チェックしてみたいと考えております。以上

昭和45年8月9日